

平成21年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	教員の教育開発力向上のためのスキル体系と研修プログラムの開発		
法人名	学校法人西野学園		
学校名	札幌リハビリテーション専門学校		
代表者	前鼻英蔵	担当者 連絡先	市川貴紀
1. 事業の概要			
<p>西野学園では、これまでに全ての学生が内容を理解できる授業を目指す組織的な取り組みを推し進め、学園独自の職業教育の仕組みとしてPDCAサイクルによる「わかる授業の教育システム」を確立した。</p> <p>本事業では、この教育システムの構築プロセスで培われたノウハウを活かし、「わかる」から「できる」ようになる職業教育の実践を目的とする教員研修プログラムを開発した。さらに、開発した教員研修プログラムを医療分野の専門学校教員に対して実施し、その有効性・有用性などに関する検証を試みた。</p> <p>また、教員研修プログラムの開発に資する情報の集約を目的に、医療・福祉分野の専門学校教育について実態調査を行った。具体的には、「医療・福祉分野の専門学校における教育改善のための組織的取り組みに関する実態調査」と「医療・福祉分野の専門学校教員を対象とする研修制度に関する実態調査」のふたつである。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①開発したプログラム・教材・教育手法等の概要			
<p>開発した教員研修プログラムのテーマは、実技指導における適切な評価項目と基準を設定し、評価を行う実践スキルの修得である。スキル領域としては「授業計画」と「効果測定」に該当する。一般的には、「授業計画」の研修ではシラバスやコマシラバスがツールとして用いられるケースが多い。しかし、シラバスやコマシラバスは、実技の評価項目を明確化し、その達成度を評価する道具としては有効ではない。そこで、これに適したツールとして新たに考案したものが「できるシート」である。</p> <p>「できるシート」の特徴は、授業計画として「指導項目」と「指導項目達成のための基準」を明確にする点である。「指導項目」とは評価の対象となる技能のカテゴリで、「指導項目達成のための基準」は、そのカテゴリに含まれる個々の要素技能と測定基準である。例えば、「感覚検査」という「指導項目」では「模擬患者に対して感覚検査の目的を説明できる」「表在感覚（触覚、痛覚、温度覚）の検査ができる」などといった行動記述の形式で要素技能と測定基準が示されることになる。この要素技能と測定基準に基づいて、学生の技能の習得度合い（到達度）を4段階で評価する。</p> <p>教員研修プログラムでは、この「できるシート」の作成・検討、研修参加者による「できるシート」の相互評価が中心的な活動となる。</p>			

②ニーズ調査等（手法・期間・効果）

教員研修プログラムの開発に資する情報の集約を目的に、以下のふたつの実態調査を実施した。

●医療・福祉分野の専門学校における教育改善の組織的取り組みに関する実態調査

カリキュラム設計・運用などに関する組織的な取り組みとその課題に対する現状把握を通して、医療・福祉分野の専門学校に共通的な課題を見出し、教員研修の在り方など今後の方策を検討するための判断材料を整備することを目的に行った。方法は郵送アンケート方式で、医療・福祉分野の専門課程を設置する全国の専門学校 306 校に調査票を送付した。回収期間は平成 21 年 11 月末から 12 月中旬までの約 3 週間、有効回答数は 88 校 (28.8%) であった。

調査の結果、カリキュラムや科目内容の改善に対する組織的な取り組みの現状や課題について具体的に把握することができた。例えば、カリキュラム編成上の課題では「方法論の不明確さ」という回答が最も多く、これに次ぐのが「ノウハウが蓄積できていない」などであった（図 1）。

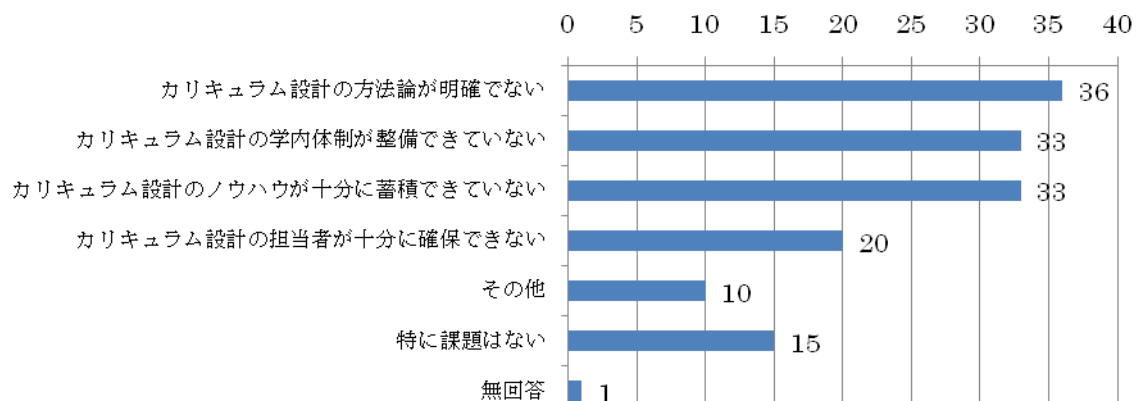


図 1：カリキュラム編成の課題

●医療・福祉分野の専門学校教員を対象とする研修制度に関する実態調査

教員研修プログラムの開発に資する情報の整備を目的に、医療・福祉分野の専門学校教育に従事する教員を対象に実施されている教員研修の内容について調査を行った。情報は文献及びインターネットから収集した。対象としたのは、以下の専門職の育成に従事する専門学校教員の研修である。

- ◆ 看護師
- ◆ 歯科衛生士
- ◆ 柔道整復師
- ◆ 理学療法士
- ◆ 作業療法士
- ◆ あん摩マッサージ師・はり師・きゅう師
- ◆ 社会福祉士
- ◆ 介護福祉士

調査では、それぞれの教員研修の内容や特徴を整理した上で、教員研修全体に共通する体系や枠組みについて明らかにした。これにより、職業教育を担う教員の研修の在り方を検討する上で有益な情報を集約することができた。

③実証講座の状況

実証講座は、平成21年11月から12月上旬まで、約5週間に亘って実施した。対象は、以下の4校の教員で、対象科目は「理学療法基礎評価学演習」とした。

- ◆ 学校法人こおりやま東都学園郡山健康科学専門学校（応用理学療法学科）
- ◆ 学校法人森ノ宮医療学園森ノ宮医療大学（理学療法学科）
- ◆ 学校法人大麻学園四国医療専門学校（理学療法学科）
- ◆ 学校法人西野学園札幌医学技術福祉専門学校（理学療法士科）

11月初旬に研修内容の説明を行った後、11月末までの期間で、各校の該当学科教員が「できるシート」を作成した。その後、各校が作成したシートを事務局が回収し、それらを各校の教員に配付すると共に、各校の教員に他校のシートの内容の査読を依頼した。12月に、各校のシート作成を担当した教員（代表者）が集まり検討会を実施した。検討会では、各校の教員が作成した「できるシート」の内容を説明した後、「できるシート」の教育効果や改善すべき点などについて議論した。

④その他

特記事項なし。

3. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

実証講座の結果から、開発した教員研修プログラム（「できるシート」の作成と相互評価）が、実技指導の向上に有効であることが確認できた。具体的には、実技の指導項目とその到達度を事前に明確化することの効果、「できるシート」を用いることで、シラバス・コマシラバスではカバーできない部分を補完できるという利点、教える側だけでなく、学生にとっても学習目標が細分化された形で明確になる（動機付けとなる）という効果などである。

②事業の成果

（1）教員研修プログラム

実技指導における適切な評価項目と基準を設定し、評価を行う実践スキルの修得を目的とする教員研修プログラムを開発した。特に、研修の中で利用するツールとして考案した「できるシート」は、実技指導の計画と効果測定を行う上で有効であり、汎用性もあるので医療分野以外の実技指導でも活用できるものとなっている。

（2）実態調査

医療・福祉分野の専門学校における教育改善の組織的取り組みに関する実態調査では、カリキュラムや科目内容の改善に対する組織的な取り組みの現状や課題について具体的に把握することができた。また、医療・福祉分野の専門学校教員を対象とする研修制度に関する実態調査では、教員研修の在り方を検討する上で有益な情報が集約できた。

（3）実証講座

実証講座を通して、開発した教員研修プログラムが実技指導の向上に有効であることを確かめることができた。さらに、考案した「できるシート」の改善点が明確となり、実証

講座実施後に改訂し、実技指導の現場により適した内容とすることができた。

③次年度以降における課題・展開

今年度の成果を踏まえ、「できる」授業の実践に向けた教員研修の具体策を継続的に検討していく。また、「できる」授業と、これまでに確立してきた「わかる授業の教育システム」との相乗効果を生み出せるような新しい仕組みについても検討を行う考えである。

対外的な展開としては、開発した教員研修プログラムは医療分野以外にも適用できる汎用性があるので、広く公開し、その普及促進を図っていきたい。

④成果の普及

(1) 成果報告会

平成22年2月17日(水)に札幌医学技術福祉専門学校にて、医療・福祉分野の専門学校関係者を対象に成果報告会を開催した。

(2) 事業報告書

本事業の成果物である『事業報告書』の内容構成を以下に示す。印刷部数は400部、医療・福祉分野の専門学校関係者を中心に配布する。

A) 第一部 調査研究編

実態調査の分析結果・考察の報告

B) 第二部 研修プログラム・実証講座編

研修プログラムの内容、実証講座の結果とそれに対する考察の報告